

施設の延命化などで補修材『ウルトラパッチ』が大きな効果

沈殿池排泥管の漏水対応

摂津市上下水道部
太中浄水場 短い工期で耐食・耐圧確保

摂津市上下水道部では、同市の太中（たいなか）浄水場で急速沈殿池排泥管が腐食し、漏水対策で苦慮していたが紫外線硬化型のFRP（ガラス繊維強化プラスチック）シートの補修材（阿南電機、製品名『ウルトラパッチ』）を採用し、効果を上げた。本紙では同部の担当者に、製品の採用背景や現状などを取材した。

（大阪新聞部・石上和弘）

大阪府摂津市は淀川右岸の三島平野の西南部に位置し、平成28年11月に市制50周年を迎えた。水道事業は4期の拡張事業を実施し、平成27年度末で給水人口8万5459人、1日最大配水量3万1360立方メートル、普及率100%、有収率94%



樋本課長



西山主幹

大阪府摂津市は淀川右岸の三島平野の西南部に位置し、平成28年11月に市制50周年を迎えた。水道事業は4期の拡張事業を実施し、平成27年度末で給水人口8万5459人、1日最大配水量3万1360立方メートル、普及率100%、有収率94%



FRPシートを貼り付け紫外線照射で硬化

「排泥管は躯体に連結してあり、更新には躯体を削る必要があります。経費や躯体強度の確保などを考慮し、補修対応しました。管肉厚が薄かったこともあり、再び漏水し、対策に頭を痛めていました。その時、『ウルトラパッチ』を販売している阿南電機株式会社が、製品採用の提案を受けました」と、西山元久・同課主幹兼浄水係長は振り返る。続けて「現場を見てもらった結果、大丈夫との回答

を得ました。排泥管の状態を考えると、半信半疑でしたが、昨年7月に『ウルトラパッチ』での補修を依頼しました。その結果、1本の漏水は完全に止まり、とにかく驚きました。残る2本も予防保全用として補修し、懸念が払拭されました」（西山主幹）と効果を語る。

「ウルトラパッチ」は漏水箇所をFRPシートを貼り付け、紫外線照射で硬化して補修する工法で、採用実績が近年増えている。西山主幹は「ウルトラパッチ」の施工期間も2日間で済み、耐食性や耐圧性

団の受水が約70%となっています」と紹介するのは、樋本宏充・摂津市上下水道部水道施設課長。

「排泥管は躯体に連結してあり、更新には躯体を削る必要があります。経費や躯体強度の確保などを考慮し、補修対応しました。管肉厚が薄かったこともあり、再び漏水し、対策に頭を痛めていました。その時、『ウルトラパッチ』を販売している阿南電機株式会社が、製品採用の提案を受けました」と、西山元久・同課主幹兼浄水係長は振り返る。続けて「現場を見てもらった結果、大丈夫との回答

にも優れているようです。工事費は少し高いのですが、今回のようなコンクリート構造物との接触部をはじめ、配水支管の溶接部、水管橋など露出管の補修には最適と言えるのではないのでしょうか」と評価する。

樋本課長は「本市は予防保全用として、今年3月に3号急速沈殿池の排泥管3本を『ウルトラパッチ』で補修し、今年度も2号急速沈殿池の排泥管3本での採用を予定しています。今後も維持管理の新技术にさらに注目し、施設の適切な補修を図りながら、延命化に努めていきたいですね」と強調した。

理している。ただ、完成後50年以上が経過しており、1号急速沈殿池の排泥管3本（いずれも80配管用炭素鋼管）が経年化で腐食し、1本からは漏水も発生していた。

「排泥管は躯体に連結してあり、更新には躯体を削る必要があります。経費や躯体強度の確保などを考慮し、補修対応しました。管肉厚が薄かったこともあり、再び漏水し、対策に頭を痛めていました。その時、『ウルトラパッチ』を販売している阿南電機株式会社が、製品採用の提案を受けました」と、西山元久・同課主幹兼浄水係長は振り返る。続けて「現場を見てもらった結果、大丈夫との回答

「ウルトラパッチ」で漏水を止め、予防保全も実施



老朽化した沈殿池排泥管から漏水



「ウルトラパッチ」で漏水を止め、予防保全も実施